
アシタハアシタノカゼガフク

実羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アシタハアシタノカゼガフク

【Nコード】

N1820D

【作者名】

実羽

【あらすじ】

日本の何処かにあるであろう写真屋さんでアルバイトする学生達の物語。笑いあり、涙あり、豆知識あり!?

労働時間1時間：ドタバタアルバイトたちの1日

ここはどこにでもあるカメラ屋さん。

そのお店のアルバイト達の物語。

「阪田さん、年賀状のプリント頼んでもいい？」

「・・・はい。」

新人アルバイト3人衆の1人阪田恵実（さかためぐみ・通称『メグ』）はこの時期年賀状や喪中がきの打ち込みと主にプリントを担当している。

「永崎君、レジ頼んだよ。」

「はい。」

3人衆の2人目永崎涼介（ながさきりょうすけ・通称『涼介』）は自称接客の天才。今まで接客業を渡り歩いてきた。

「鈴原君、裏でデジカメプリントお願いね。」

3人衆の大トリ鈴原海斗（すずはらいと・通称『海斗』）はラボ（デジカメプリントなどをするところ）を主に担当。

この仕事以外に接客やレジ打ちもする。

「メグ、明日渡しの年賀状すぐできる？」

「何枚？」

「300枚。」

「・・・今7：30でしょ？無理！せめて明後日渡し。」

「頼むよ！！」

彼は3人の先輩である飯沼友幸（いいぬまともゆき・通称『友幸』）バイト歴が長く、時期社員候補（本人は否定中）

「だって、明日渡しがこれだけ残ってるんだよ！？それ飛び込みでしょ？」

「だからさくそこをなんとか・・・。」

2人のケンカが持続中。

「メグ、いいからそれとりあえずやれよ。明日学校休みだし、残業

しろ。」

「わかった、やる！」

「ありがとう！メグ、優しい。」
袋をジツと見て一言。

「海斗、そう言ったからには私の仕事が終わるまで待ってくれるんでしょ!？」

「はい、はい。待ってるから。」

カウンターにて。

「和臣、ゴミ捨て行って来て。」

「えっ？俺が行くの？」

「だって、俺売り上げ数えてるし、店長裏だし、滝口さん休憩だし……。」

ゴミ捨てを微妙に拒否したのは尾崎和臣（おざきかずおみ・通称『尾崎』飯沼のみ『和臣』）

「え……。」

「じゃあいいよ!!!俺が行くよ!!!和臣のバカ!!!」
そう言っって台車をダツシュで押していく飯沼。

「お金置いたまま？」

「尾崎さん、これ店長が渡しといてくれって。」

「永崎君、友幸の仕事やってくれない？」

「売り上げ数え？」

「うん。」

「しょうがないな……。」

男2人がレジ担当。

「涼介……メグをどうにかしてくれ。」

「どうした？」

「飛び込み300枚の年賀に半ギレ。」

「それ誰が担当？」

「友幸さん。」

「友幸さんバカだ〜!!!」

ラボでは阪田が半ギレで300枚の年賀をプリントしていました。

労働時間2時間：バタバタの後は

バイト終わり

お店の裏でその日の日誌を書く永崎。

坂田がやっていた年賀状のプリントは無事終わり、半ギレ状態で現在閉店作業中。

永崎は足早に仕事を終わらせて、日誌を書いていると、メールが受信された。見ると彼女からだった。

『今駅前のマツクにいるんだけど、まだバイト中?』

永崎の彼女は年上で社会人。ちなみに飯沼の交際6年目の彼女も年上で社会人。

『今まだ店だけど、あと少しで終わるから。まだ時間大丈夫?』

『明日仕事休みだから、大丈夫だよ。』

『じゃあ少し待ってて。時間かかると思っけど。』

閉店作業中の店内。

「永崎君は?」

「21時上がりなんで、日誌書いてます。」

「海斗ー!!! ネット張るの手伝ってー!!!」

「阪田さんなんであんなにキレてるの?」

「飛び込み年賀300枚に半ギレです。」

「阪田さん、いつも1人でネットやってなかったっけ?」

「多分海斗に愚痴ってます。」

その頃、お店の前では。

「もう絶対嫌がらせだよね、友幸は。」

愚痴ってました、鈴原に。

「飯沼さんよくやるんだよね、飛び込み。」

「ラボもそう?」

「うん、閉店ギリギリによく来る。」

「友幸バカ」

そこへ私服に着替えてた永崎がやってくる。

「お疲れ〜。」

「お疲れ様。」

「もう帰るの？」

「彼女がマツクにいる。」

「今日早番だったんだ〜。」

永崎の彼女は看護師。

会える時間が少ないので、寂しいらしい。

「じゃあな。」

「お疲れつす。」

その姿を見守る2人。

「涼介の彼女つて社会人？」

「看護師2年目。」

「えっ！？すごくね！？」

「23歳、美人、長身、元読者モデル、実家金持ち。」

「そんなすごい人とどうやって出会ったんだ！？」

閉店作業中、阪田・鈴原・飯沼・尾崎が作業中。

「阪田さん、キリがいいところで終わっていいよ。」

「店長！！どうしてメグばかり先に帰らせるんですか！？」

「未成年・女・チビだから。」

「チビはいらない。」

「阪田さん女の子だし、未成年だから。他のみんなは男の子じゃん。」

「差別だ〜！！」

労働時間3時間：新キャラ登場

次の日。

お店

誰かを待っているような阪田がいる。

「いらつしゃいませ〜。」

他の従業員の声が響いている。

「尾崎さん来ないね〜。」

「尾崎さん待つてないし。」

鈴原が阪田をおちよくる。

「阪田さん、いい?」

「は〜い。じゃあ田村さん呼んでるから。」

そう言つて先輩のである田村奈津実（たむらなつみ・通称『田村飯沼のみ』なつちゃん）

「これ急遽なんだけど、年賀状の打ち込みできる?」

「いつ渡しですか?」

「明後日。」

「う〜ん、出来ると思いますよ。200枚だったら余裕、余裕。」

「お願いできる?今からだと時間かかるよ。」

「残業します。まあ明日休みだし。」

急遽年賀状印刷をすることになった阪田なのでした。

「あれ?涼介、メグは?」

「裏で年賀状の印刷やつてる。」

「えっ?今から?」

この時時間は8:45

「飛び込みの年賀?誰が担当なの?」

「田村さん。」

「えっ!?田村さんなの?友幸さんじゃなくて?」

「うん、田村さん。珍しいよね。」

「友幸さんはいつものことだから気にしないけど。」

「メグく、無理して全部やらなくていいぞ?」

「えっ!? 打ち込みだけしかしないよ。今から印刷すんのめんどくさいし。」

「あっそうですか・・・」

有言不実行?

「なあ、なあ海斗く。」

「なんすか?」

「メグと和臣ってどう思う?」

「どう思ってもこう思っても、メグ片想い中じゃないですか。尾崎さんに。」

飯沼は鈴原に恋愛事情を事情聴取中。

鈴原は迷惑気味?

そこへ同じデパート内の別店舗、本屋の従業員小笠原麻実（おがさわらあさみ・通称『麻実』）が登場。

「なにやってるの?お二人さん。」

「おっ!?小笠原。いいタイミングに来た。店手伝え」

「やだ」

「おい〜!!!!!!」

飯沼&小笠原のコントは数分続くのでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1820d/>

アシタハアシタノカゼガフク

2010年12月13日20時17分発行